

同窓会ニュース

第1号

昭和58年10月26日

職業訓練大学校同窓会

〒229 神奈川県相模原市相原1960

同窓会ニュースの発刊について

今年で第19期生が卒業となり、同窓生数は約1,800名となりました。第1期生の卒業と同時に結成をみた訓大同窓会も来年で20年を迎えます。

会報及び会員名簿の発行並びに配布は、会の重要な事業のひとつであり、会員諸兄からの御要望も大きいところであります。しかしながら、本会の財政からすると、会誌や名簿の年ごとの発行・配布は不可能な状態であります。

そこで、今期より、経費のかからない同窓会

ニュースを新たに企画発行し、会員連絡を密にしていくことにしました。今後、同窓会ニュースは、会誌や名簿の発行されない年度毎に発行してゆきたいと考えております。

このニュースは、訓大の近況報告や同窓会連絡及び会員の交流の場としての利用も考えております。会員諸兄の御意見・原稿をいただきたいと思ひます、とりあえず第1号と試みに発行いたします。今後の御協力をお願い致します。

訓大同窓会発足20周年行事に向けて

同窓会は、来年発足20周年を迎えることになりました。そこで20周年行事の御協力と概要をお知らせ致します。

記念行事は、役員会で当初記念大会、記念誌発行、記念碑建立、記念パーティー、ゴルフ大会etcの案が出されました。しかし、20周年とはいっても会員の平均年齢は、30歳未満の若い会でありますので、それら盛大な催しは、将来会員の皆様の実力がついた時期に行うこととしました。今回は、同窓会として見た卒業生像

を知る目的に会員の現況調査を致したいと考えております。

総会は、来年10月頃開催したいと計画しておりますので多数の会員の出席を期待しております。また記念誌の内容は、現況調査報告並びに会員・職員の住所録の整備を主に編集してみたいと考えておりますので御期待下さい。

なお、会員に対する現況調査は、本年末に行う予定にしておりますのでその節は、御協力下さる様お願い申し上げます。(20周年行事担当)

移転してからの訓大

移転は新校舎の落成を待って昭和48年10月初旬に行われた。しかし、機器設備等はこの年度の予算では未だ完全に整うに至らず、教育訓練の環境整備にはなお時間を要した。学生定員も1学年120名より240名に拡大された。しかし、卒業生の主な就職先であった総訓校の新設が一段落し、指導員に対する新規需要も頭打ちの傾向があらわれるに及んで、昭和47年度以降の卒業生からは所要の人員の枠を示し、数だけ採用する考え方を雇用促進事業団が示した。これに対し、学生の授業放棄による抗議行動があったため、この措置は延期されたが、実際問題として配置先がなく、欠員が出るまで暫定的に所属を決めるプール制がとられた。しかしこの方法にも限界があり、昭和51年度以降は、必要数のみを採用するという方針が確立した。

一方、昭和49年には、雇用保険法の制定に伴って職業訓練法の一部改正が行われた。これによって、新たに職業訓練短期大学校及び技能開発センターが設けられることになった。そして昭和53年、職業訓練法がさらに改正され、雇用促進事業団の設置する高等職業訓練校は、職業訓練短期大学校または技能開発センターへと転換することになった。このような制度全体の改

革は、指導員訓練をその主たる任務とする訓大にも様々な影響をもたらすとともに、訓大のあり方が問い直されることにもなった。その最も特徴的な現れが高卒者訓練生の増加、成人訓練の比重の高まりなどにより、指導員の資質の向上を図る必要が生じた。これに対応するため、昭和50年に訓大に再訓練部が新設され、1カ月の短期研修に加えて6カ月の長期研修が充足した。そして53年度からは、訓練校の職種転換需要に応ずるため、免許追加取得訓練も開始された。

長期訓練過程においては、昭和50年度から、これまでの入学選考制度を一部修正して新たに推薦入学制度が導入された。対象は当初工業高校卒業生に限られていたが、52年度からは高等訓練課程の修了者、さらに55年度からは普通高校卒業生にも拡大された。また、51年度に編入制度が充足し、職業訓練短大卒業生が長期訓練過程へ進む途も開かれた。そして昭和55年度には、中国政府との協議に基づき、中国留学生の長期訓練課程への受け入れが開始された。

昭和53年4月、事業団及び訓大の組織が一部改革され、職業訓練研究センターが訓大の附置機関として充足した。労働省及び事業団本部においては、新たに訓練教材開発のための研究所を設置する構想をもって、昭和51年度からその準備に入っていたが、最終的には、訓大の調査研究部と事業団本部に置かれていた教材課を統合し、職業訓練研究センターの名称で充足することとなった。

55年度は、移転後の内部体制充実に努められた菅野2代校長に代わり、浅枝敏夫博士（東工大名誉教授）が3代校長に就任された。

そして58年4月、56年の国際障害者年を契機に、身体障害者のノーマライゼーションへの道を拓いていくために必要な幅広い知識と実技能力及び高度の指導技法を有する指導員を養成する福祉工学科が新設された。



走行テスト実習

各科近況報告……

機 械 系

機 械 科

最近の機械科は人事異動が激しく、科の運営も定常状態から程遠いものがあります。鎌田先生、小原先生が亡くなられて久しく、中村先生、桑原先生、太田先生に続いて、今年は小山先生が定年退職され、石倉先生が5月にバナマの技術センターに主席顧問として赴任されました。また訓練部に福祉工学科が新設されたことに伴い、塩田助教授、武藤助手が専任として機械科から離れました。後任として東京工大から自動制御の池辺教授、理化学研究所から電子ビーム加工の宮崎教授が4月に赴任され、また15期生の坂井君が安芸総訓より助手として着任しました。結果として機械科職員は1名減の14名となり、その内訓大卒は8名ですが、精密加工及びFMS時代の機械科として柔軟に対応すべく全

員で頑張っております。

運輸装置科

現在コンピューターは各方面に導入され、その普及は加速度的に進んでいます。運輸装置科も時代の波に押し流されないようにと、ただ今、パソコンを8台ほど保有しています。実習場の一角にパーティションで区切った教室を作り、この中に5台のパソコンを設置し、長期のほか、再訓練や国際のコースの教育訓練に使用しています。

また、シュリーレンによる流れの可視化、レーザドプラ流速計とコンピュータによる内燃機関の研究やコンピュータを用いた自動車走行性能シュミレーション教材の開発などを行っています。

電 気 系

電 気 科

現在の電気科は見城科主任をはじめとした下記のスタッフで頑張っております。

科主任	見城尚志	教授
	小田荘一	〃
	大和玄一	〃
	佐藤一郎	助教授
	羽柴 薫	〃
	中野弘伸	〃 (訓大2期)
	市川政一	〃
	高橋 久	講師 (訓大11期)
	荒 隆裕	助手 (訓大13期)
	渡辺信公	〃 (訓大15期)

大和教授は2年前電力中央研究所から赴任されました。送配電システムの接地に関する研究では国内でも有名です。また、長年、電気科で指導してこられました堀江前助教授は昨年3月定年で退職されました。しかし、現在も非常勤講師として訓大生、あるいは国際の研修生を熱心に指導されております。

電 子 科

相模原に移転し、すでに10年余りになります。移転前は電子回路技術を中心としたカリキュラムでしたが、移転後は、半導体関係や情報処理に関する学科や実技が多く取り入れたカリキュラムになっています。しかしながら、このように守備範囲を拡げたため(本当にそうかどうかは疑問ですが)、いささか学生が消化不良を起こしているようです。だからというわけでもありませんが、訓大電子科の進むべき方向を明確にし、これにより、カリキュラムの見直しをしようということになりました。つきましては、電子科OBの方で「訓大電子科の進むべき方向は……である」とか「今、世の中は……だから、訓大(電子科)卒業生は……でなければだめ」などの御意見をお持ちの方はぜひ、下記まで御一報いただければさいわいです。

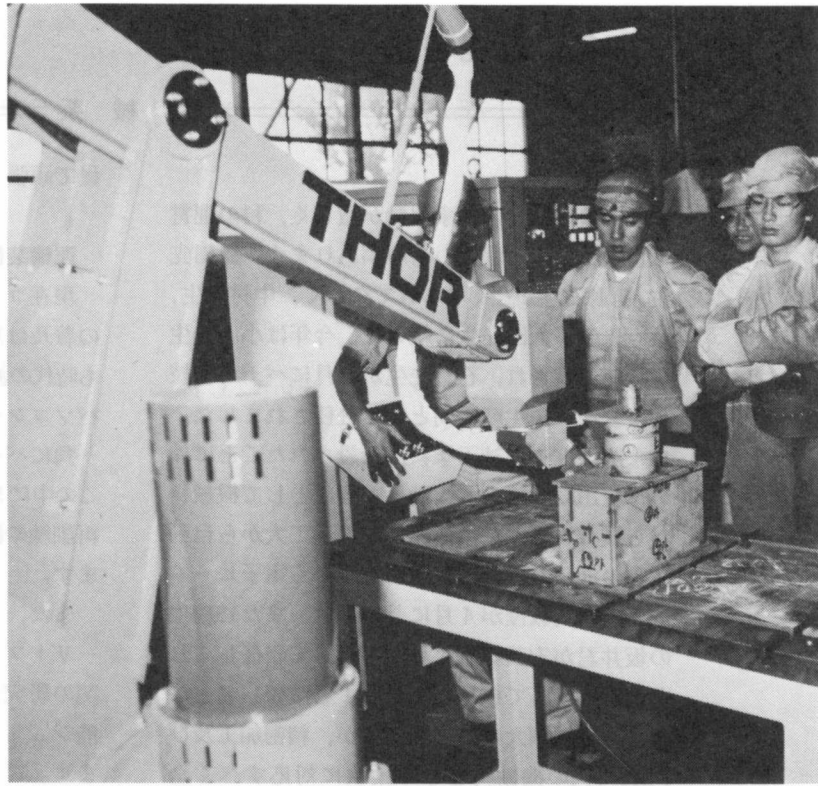
訓大電子科 八田昌之

TEL 0426-61-2111内(305)

化学系

塗装科

植木先生が明春3月末をもって定年を迎えられます。きびしさ、やさしさ、名語録、シャバの味等卒業生が先生より与えていただいた大きなものが少しずつそれぞれのなかに芽生えてきています。塗装科では、先生の退任の時期にあわせ、先生の退任記念会を発足させました。先生のさらに一層の御活躍と今後も変わらぬ御指導をお願いするために記念出版、記念講演、記念パーティーの企画準備中です。追って卒業生の皆さんには御案内いたします。3月の記念パーティーにはぜひとも出席し、先生に感謝するとともに楽しい会にできますよう御協力をお願い致します。



溶接ロボットの実習

金属系

溶接科

現在の溶接科の教官スタッフは、教授として以前からの宮本、宮入、村本、倉本の各先生、この他に新たに今年度から理学電機の研究部長の要職にあった小崎先生を教授として迎え入れました。

先生の担当としては溶接工学実験、溶接設計製図、溶接機器及び制御等です。

溶接科も世の中の新しい技術を積極的に授業に取り入れていくつもりで、学科、実験、実習を行っていますが、このためにも小崎先生の豊富な現場の知識は貴重です。

助教授としては岡野、筒井、西田、安田、講師は日向の各先生、以上のメンバーです。

助手としては森先生の他に、新たに東北大学の修士を終えた佐々木先生を招へいしました。佐々木先生は溶接力学関係が専門です。

現在、以上12名で全員力を合わせて長期、短期、新たに加わった国際、あるいは再訓練関係

等のカリキュラムをこなしています。

塑性加工科

塑性加工科の近況についてお知らせします。

昭和57年3月 板金実習を主に担当してこられた助教授の当麻三郎先生が退官され、現在は東京短大やりハビリセンターで講師として活躍されています。

昭和58年3月 訓大4期生でもあり、板金実習を主に担当されていた講師の嶋田智明先生が郷里の近くにある荒尾技能開発センターの溶接科に転勤されました。

昭和58年4月 冷間鍛造が御専門の講師の松原茂夫先生を横浜国大からお迎えし、この分野の一層の充実と発展が期待されます。

訓大塑性加工科では旧の金属材料科の先生方と合併し、全員12名で職業訓練や研究に取り組んでいます。

建築系

建築科

今野先生が昨年6月13日に尾瀬で消息を絶つてから1年余りを経過しました。この間親族の方と、尾瀬救助隊、訓大職員有志などによる捜索が行われきましたが、努力の甲斐なく発見されておりません。2週間前の5月30日にある会合で先生と御一緒に、元気な顔を拝見していただけない、とても信じられない出来事でありませぬ。今すぐにもお会いできるような気がしてなりません。

行方不明になって約一カ月後、米田清治君（1期生）が発起人代表となって募金活動が行われました。捜索に役立たせていただくための募金でしたが、80人を超える多くの方々に御賛同いただくことができました（うち東京職訓短大建築科卒業生、訓大他科卒業生数名を含む）。

依然として手懸りさえ得られない状況であることから、親族の方々の主催により、9月15日に「今野先生を偲ぶ会」が催されました。

これまで、同窓会の多くの方々から心配の問い合わせをいただきましたので、この紙面を借

りまして、簡単ではありますが現在の状況を報告いたします。

木材加工科

昭和54年から3年間に平井信二先生、剣持仁先生、木下直治先生が相次いで退職され、木材加工科は一つの節目を迎えました。しかし昭和54年には静岡大学農学部より末松充彦助手、翌年には千葉大学工学部より高山英樹助手を迎え、次いで昭和56年には林業試験場より小西千代治教授が着任され、新しいスタッフで新しい木材加工科を造るべく努力をしています。またこの間梅津二郎助教授が東京大学より工学博士、古澤富志雄助教授が北海道大学より農学博士の学位を授与されるなどの朗報があり、若いスタッフもこれに続けと頑張っております。

設備についても年々実験機器の充実が計られており、昨年度にはNC複合加工機が備えられました。

福祉系

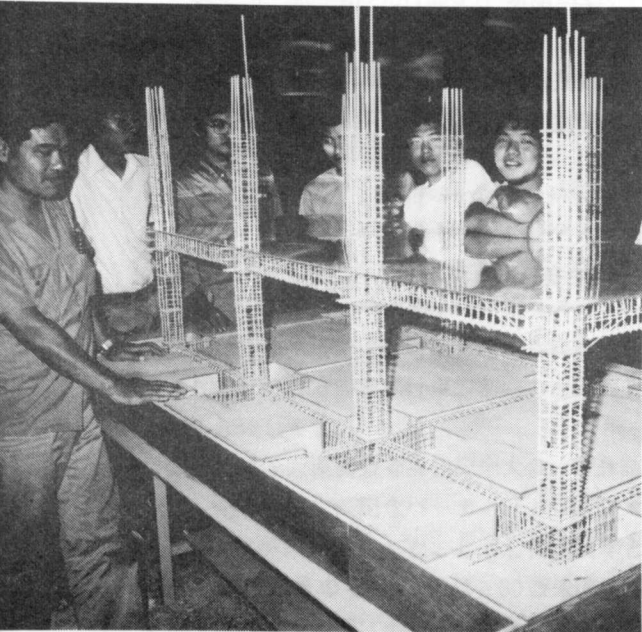
福祉工学科

当科で学習する専門科目は下表に示すとおり、5分野から成り立っています。専門科目は、第2年次と第3年次に集中しており、第4年次の大部分は卒業研究に充てられます。

今年度は20名の学生が入学し、4名の教員が指導に当たっています。現在、実験、研究棟及び実習場の設計図ができ上がり、本年中に着工の予定です。また、機器等整備の予算がみとめられ、いま、これらの機器の購入作業が進められているところです。

福祉工学科を支える各分野の主要な内容

各分野	主な内容
福祉環境工学	福祉環境論、生活環境、作業環境の設計等
福祉機器学	福祉機器の設計、製作等
医学リハビリテーション	形態学、機能学、リハビリテーション医学等
職業リハビリテーション	障害者職業論、職業能力評価、人間関係論等
メカトロニクス及び関連専門	機械工学、機構学、電子工学、医用電子回路論、情報制御工学、センサ工学、人間工学、安全工学、生産工学等



建築科の実習

同窓会連絡

☆同窓会名簿の整備についてのお願い

会員数の増加に伴い、会員名簿の正確な整理が難しくなってきました。名簿は、各科代表者に御協力いただき、科ごとに整備してきております。しかしながら、転勤、転職、結婚等に伴う住所及び勤務先等の変更がひんばんにあり、その把握で苦労しております。

このニュースが無事に御手元に届く会員の皆さんにおいては問題がないのですが、今後、変更がありましたらその都度、同窓会あるいは各科代表者宛へガキで御一報下さい。各科代表者は下記の方々をお願いしております。御協力を願います。

機械科	広田平一
運輸装置科	永田雅美
塑性加工科	大谷昇
溶接科	西田隆法
金属材料科	片岡義博
電気科	中野弘伸
電子科	八田昌之
建築科	谷卓郎
木材加工科	吉松孝夫
塗装科	牛尼清治

☆会費納入についてのお願い

本会の運営は、終身会費として納入していた

だく5,000円の会費でまかなわれております。現状では、通信連絡費・印刷費などの増加により、会をスムーズに運営していく事が非常に困難な状態となっております。会費未納の皆様は、下記の口座番号、加入者名に郵便局より振替用紙を御利用の上至急会費の払い込みをお願いいたします。なお、裏面の通信欄には、卒業年度・科・払込金額・近況報告等の御記入をお願いします。

口座番号 東京45350
加入者名 職業訓練大学校同窓会

☆地方支部についてのお願い

今年3月の地方支部及び各地域における同窓会の集まりについての予備調査では多くの皆さんの御協力ありがとうございました。数支部を除いて現在その活動が停滞していますが、支部活動にかかわる御要望・御意見をおよせ下さい。

☆訓大職員の退職について

訓大及び訓大卒業生に対して、ひとかたならぬ御尽力を下された次の先生方が来春3月末をもって退職されますので御連絡致します。

学生部長	清水正男
塗装科教授	植木憲二
機械科助教授	石倉茂雄
塑性加工科助教授	土山淳二